## 大腸ステント手技研究会 第6回運営委員・世話人会 議事録

日時:2014.10.25 11:30-12:45

場所:ホテルパールシティー神戸 5階 「503+504」

開会及び挨拶

研究会代表世話人 斉田芳久

1. 議事

(1) 庶務報告

事務局 榎本俊行

賛助会員

会計報告

庶務報告に関しては特に質問なし。

(2) 第3回大腸ステント安全研究会について

守口敬任会病院 島田 守

多数の先生の出席をいただきました。

(3) 附置研究会から関連研究会への移行と研究会会則の変更

日本消化器内視鏡学会附置研究会の期限が 2 月末、前回賛同いただいたように関連研究会として 3 月から認められました。

それに伴って会則変更をします。(変更点を赤字で提示)

運営委員は19名 4名委任状・参加者の11名全員の賛成をいただき、15/19票にて会則変更が 承認された。HPの会則を変更します

(4) HP の英文化について

英語の論文を掲載するなど、引用される可能性があるので利点はあるがコストが高い 伊佐山先 生松澤先生などより グローバル化を考えると英訳するべき

問題は値段で全体を英文化すると 200 万程度かかるが、部分的 (ミニガイドラインや業績、Dr 名)の英文化であればそこまではかからない

企業のサポートはいただきながら、部分的に英文化する方向で了承された。

まず業者に翻訳してもらいみんなで確認を→業者と交渉中

- (5) 各研究の進捗状況
  - a. WallFlex 短期 松澤先生 GIE に投稿すみ

吉田先生 ウィーンで発表 質問は多かったが異論はなかった

榎本先生 日中韓で発表 特になし

今後、10/26 田畑・小泉先生 JDDW 内視鏡の PD で発表

主題発表: 腹部救急 冨田先生 松澤先生 次回の 89 回消化器内視鏡学会総会 一般演題にリスクファクターについて: これで登録全施設の名前が載ったかたち

短期成績についてはほぼ終了(ただし主題などで報告希望の先生はどうぞご連絡を)

b. Wall Flex BTS 短期 齊藤先生が SAGES で すでに応募済み

今後の予定 89 回消化器内視鏡 WS 金澤先生発表(抄録:承認済み)

池田先生 消化器外科 WS 大腸癌イレウスの治療と問題点に 12/15 応募を

(共同演者は外科医か?まだ HP 開いていないので未定:外科会員のみの場合 池田、松澤、 齊藤、榎本、冨田、小西、金澤、島田、山岸、高安、高橋慶一、斉田か)

他にも発表できるところを探します。

c. WallFlex Palliative 吉田先生が 2014.12 目処に集計・分析を開始 再来年の発表を目指す

- d. WallFlex BTS 長期 桑井先生が 2018 年頃に開始予定
- e. Niti-S 短期成績 吉田先生が集計分析中 英文論文と国際発表を準備 隅田先生 国内初 来年の89回消化器内視鏡学会のWS 島田先生 (榎本から変更しました) 主題発表来年の消化器外科のWSに

(共同演者は外科医?:島田、冨田、松澤、吉川、齊藤、山岸、大木、渡部、小西、吉満、 牛込、金澤、猪股、高橋慶一、斉田)

他にも発表できるところを探します。

- f. Niti-S BTS 短期 山田先生 集計分析英文論文 2014.12 月から開始 再来年の発表を目 指す
- g. Niti-S Palliative 京先生 集計分析英文論文 2015.6 頃?
- h. Niti-S BTS 長期 榎本先生 集計分析英文論文 2019.12 頃? それ以外にも上位登録者の発表希望を聞きました。
- (6) 現在進行中の研究なし
- (7) 第4回大腸ステント安全手技研究会の開催

関連研究会では会期中に会場はとってくれない予定ですので、来年春ではなく秋の JDDW 品川 2015/10/8 木-11 日の際に、周辺の会議場で行う。当番世話人は都立駒込の小泉浩一先生 日程は 初日? 日程・場所・内容は当番世話人にお任せし、決まったら連絡します。

(8) 第7回の運営委員世話人会

春の89回消化器内視鏡(名古屋)2015/5/29金-31日 の間で行う。ランチョンなどの日程をみて日にちは決定する。(現在、学会事務局に問い合わせ中)

- (9) 今後の副次解析 研究提案
  - ① 吉田先生:レトロの研究: BTS 切除検体の病理学的検索で edge によるびらんや リンパ管侵襲などのステント間の比較 →新規プロトコールが必要 倫理委員会審査も必要 希望の施設で症例を集めて検討 (Wall 100 vs Niti-S 100?) → 吉田・山田・齊藤で検討を
  - ② 吉田先生:RAS 解析の保険収載を念頭にいれた切除不能進行大腸癌に対するステント留置後 化学療法の安全性 phase II 単アームの臨床研究 → 吉田・桑井で検討
  - ③ 斉田:欧州のガイドラインで BTS に対して厳しい意見が収載されている。しかし BTS が長期予後に悪影響を与える一番の理由は穿孔なのでそれが少ない日本ではそのようなことは可能性が低いと思われる。万が一欧米の GL が日本にそのまま外挿されれば日本で BTS ができなくなる可能性があり、ようやく人工肛門の手術から解放される手技ができなくなる可能性がある。そのため日本で BTS の多施設の臨床研究を立ち上げ、少なくとも臨床研究として早急に開始する必要がある。CROSSO での RCT は IC 上も厳しいので CROSS1.2 での術前絶食vs SEMS の比較前向き研究(非劣性?)を検討したい。→ 今後斉田・松澤などでワーキンググループをつくりプロトコールを検討する。